

「ロケット」の串本で開催

NASA世界同時に プログラミング大会

2021年に民間初の小型ロケット発射場の設置が予定される串本町で、19、20の両日、米航空宇宙局(NASA)が毎年世界の各会場で同時に開くプログラミングのコンテストが開かれる变成了。県内では初めての開催。串本会場を主催する実行委員会の宮内隆行委員長(53)は「今後地元で毎年開き、和歌山の優秀な人材を発掘したい。ハイテクな町の雰囲気をつくりたい」と語った。

NASAが2012年から開催する「NASA Space Apps Challenge」。昨年は国内6会場を含む75カ国200会場で1万8千人が参加して開かれた。今年は国内では、串本町を含め横浜

市や札幌市、大阪市など約10会場で予定されている。

このイベントは、参加者が3~5人のチームを組み、NASAが公開するデータを使い、五つのテーマから一つを選んでアプリケーションなどを開発。各会場で使いやすさや発想、デザインなどを審査し優秀作品を決定、NASAに提出する。NASAは世界から提出された各優秀作品について最終審査し、最優秀チームを招待する。これまで国内から招待された例はない

といふ。五つのテーマはNASAデータを使って海を監視し、理解する方法を問う「地球の海」のほか「私たちの月」「近くの世界で生きていく」。

県内では串本町の県立潮岬青少年の家を会場に、実行委員会が主催し、県と串本町が後援する。実行委員長の宮内さんは愛知県出身で串本町在住。世界中で使用されるホームページ作成ソフト「Word Press」開発者の一人で、現在は「地域活性化ICT利活用研究会」理事長やウェブ地図開発会社の社長を務める。

宮内さんは以前から串本町での開催を模索。今年、小型ロケット発射場設置が決定したのをきっかけに、NASAに申請して決まった。県内外から大人や中高生だけでなく、小学生の参加も予定されている。審査員は宇宙航空研究開発機構(JAXA)の衛星システム開発統括や大学教授ら4人が務める。

富内さんは9日、県庁の仁坂吉伸知事を訪問し、串本町での開催を報告した。



ヤマヨテクスタイルが手掛けたラグビー日本代表のジャージーを手にする山下郁夫社長

(上富田町岩田で)

ラグビーのワールドカップ(W杯)で躍進する日本代表選手が着用するジャージーに、上富田町岩田のニット生地製造・販売会社「ヤマヨテクスタイル」の生地が使われている。W杯では4大会連続で採用され、改良を重ねて進化を続ける。山下郁夫社長(73)は「W杯が盛り上がる中、地元に日本代表と関わる企業があることを知ってほしい」と話している。

ヤマヨテクスタイルは、丸た。70年、上富田町で紀南工場を操業し、スポーツウェアの生地の製造を始めた。ラグビーワールドカップ(1991年)日本代表のジャージーの生地は、2007年のW杯フランス大会の時から4大会連続で採用されている。

日本代表にジャージーを供給するオールドワイン(東京都)のグループ会社「カンタベリー・オブニュージーランドジャパン」(同)から依頼を受け、今回はBK(バックス)用ジャージーの共同開発を行った。FW(フォワード)の生地は福井県の会社が手掛けた。

BK用のジャージーは「薄くて軽く、伸びのある生地」にこだわり、代表選手の意向を聞きながら試行錯誤を重ねた。「薄くて軽くすれば破れやすくなる。相反する要求を満たすのが難しかった」と菅業本部長の橋本長治さん(44)は言う。

強度が高く従来より細い糸を使い、編み方を見直すなどをして、3年かけて開発に成功した。スポーツウェアを手掛けた50年のノウハウを生かし、選手のパフォーマンスを最大限に発揮できる生地に仕上げたという。

日本代表のジャージーは白

ラグビーW杯

日本代表生地で支える 上富田の企業が開発

発行所
和歌山
100番
電話・
営業F
編集F
振替口
和電
申電

地に赤いラインの入った日の丸カラー。模様は武士の「かぶと」をデザインしている。

ヤマヨテクスタイルが手掛けた選手用のジャージーは特注品で、市販されていない。

上富田町ではW杯直前の9月、出場チームのナミビアが合宿し、町民や地元のラグビーファンらが熱烈に歓迎した。山下社長はナミビアを迎えた選手用のジャージーは特注品で、市販されていない。

ヤマヨテクスタイルは、2019年、山下社長の祖父と父の実行委員会の委員長を務めた。同社は同町を拠点に活動する女子ラグビーチーム「和歌山パシフィックオーシャンズ」のスポンサーでもあり、ジャージーを提供した。

山下社長は「地元でラグビーファンが高まってうれしい。社員も日本代表のジャージーに

携わることで誇りと喜びを感じている。今後も携わっていきたい」と話す。

W杯では1次予選で3連勝し、初の8強入りへ期待がか

る日本代表。日本企業の技

術と思いが結集されたジャ

ジーが快進撃を支えている。

ヤマヨテクスタイルは、2019年、山下社長の祖父と父の実行委員会の委員長を務めた。同社は同町を拠点に活動する女子ラグビーチーム「和歌山パシフィックオーシャンズ」のスポンサーでもあり、ジャージーを提供した。

山下社長は「地元でラグビーファンが高まってうれしい。社員も日本代表のジャージーに

携わることで誇りと喜びを感じている。今後も携わっていきたい」と話す。

W杯では1次予選で3連勝し、初の8強入りへ期待がか

る日本代表。日本企業の技

術と思いが結集されたジャ

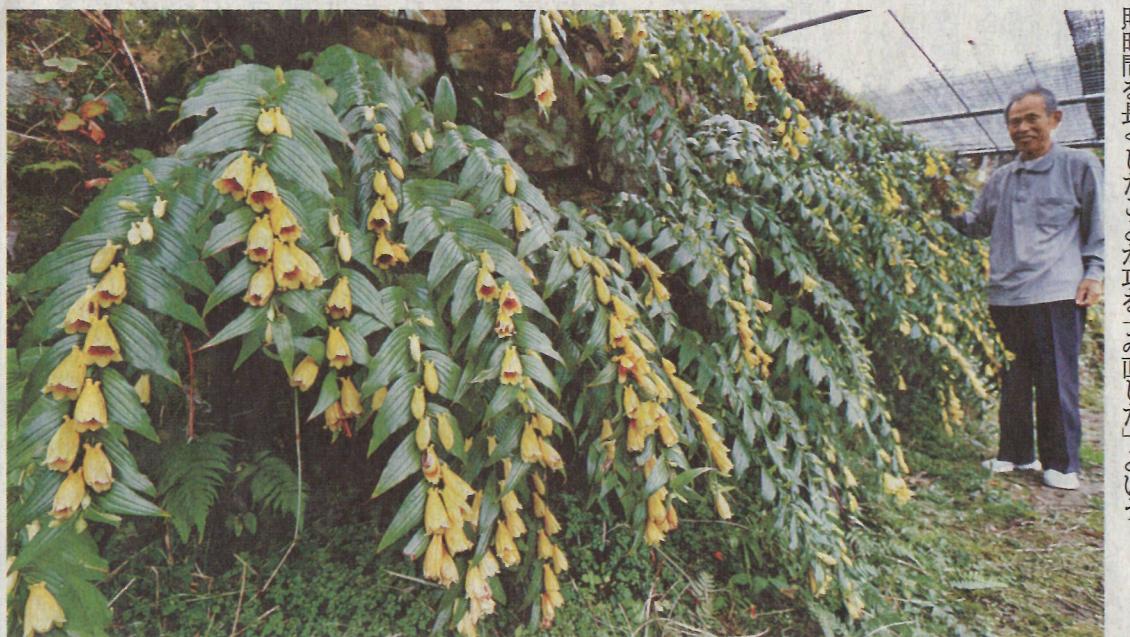
ジーが快進撃を支えている。

◆

弁田辺

6「パパ

7「教育



「山里の貴婦人」咲く すさみ

すさみ町佐本地域で、紀伊半島の固有種で「山里の貴婦人」として知られるキイジョウウロウホトトギス(写真)が見頃を迎えている。同町佐本追川223の1、長25cmの石垣に植えた株が茎を伸ばし、釣り鐘状の黄色い花をつけている。春以降の日照時間を長くしたことが功を奏したのか、今年は特に咲き具合が良いという。見物客も多いといい「きれい」と喜んでくれるのがうれしい」と話す。中露さんは6月、鋼管組み立て黒いシートで覆う日よけを数十年ぶりに一新した。「私はもう高齢だが、佐本地域にいつまでもキイジョウウロウホトトギスを残したい」と組み直した」という。

ヤマヨテクスタイルは、2019年、山下社長の祖父と父の実行委員会の委員長を務めた。同社は同町を拠点に活動する女子ラグビーチーム「和歌山パシフィックオーシャンズ」のスポンサーでもあり、ジャージーを提供した。

山下社長は「地元でラグビーファンが高まってうれしい。社員も日本代表のジャージーに

携わることで誇りと喜びを感じている。今後も携わっていきたい」と話す。

W杯では1次予選で3連勝し、初の8強入りへ期待がか

る日本代表。日本企業の技

術と思いが結集されたジャ

ジーが快進撃を支えている。

◆

弁田辺

6「パパ

7「教育